

【編集部便り】

○先ずKK通信第十六号の遅延をお詫び致します。編集が全部出来てしましたのに、途中で一寸やり替えを要つた為時期を失して、お待ち願つてゐる皆様に大変御迷惑をおかけしました。

○今後徹底的に随時打ちに発行してこの遅延をとりかえす考えです。

○アブ全盛の時運に便乗して、我も我もと石へならつた末、露店に山積したアブマネ雑誌のゾッキ本の山、それはいゝとして、街に氾濫する云々、の新聞記事の通り、又々取締り強化、或は新取締法が出来るそうといった噂。

○俺も一つアブ雑誌をと当て込もうとしていた連中もそんな噂で大分尻込みしたそうです。堅くして売れなくなつて潰れるというのが、今迄の定石のような恰好でしたから御用心。

○二月号は読みごたえのある読物本位の特集、次に続いて三月号は、「倒錯の告白と手記の大特集」と銘うつて、今迄陽の目を見ずに温存されてあつた諸々の読者の慟哭の告白をあらゆるケ

1スに亘つて網羅しようという企画。

○今迄本職の方がお忙しくて残念ながら暫く間遠うになつていました岡田咲子さん、二月号には「復讐」(挿繪には新鋭浜木節さん執筆)を久方ぶりに発表、今後は従来の境地を一擲した新鮮なものを書きましよう、というはりきつたお便り。さて、女が女を虐げるどんな傑作が寄せられるでしょうか、皆様と一緒に期待しましょう。

○皆さんに読んで頂きたい一文が到着しました。曰く、鬼山絢策氏の「変態讚美論」全三巻(第一部アブ排斥否定論、第二部、変態性慾各種型の道徳的解釋、第三部讚美論)題名は一寸むつかしそうですが、中々どうして、「らぶ・すれいぶ」の作者としての同氏が読者に訴えたいと熱意を以て執筆されたものだけに、まるで膝を混えて語り合ふような親しきをもつて迫ってくるものがあります。アブニストの方は必ず一度は目を通して下さい。

○新年号校了の日に古川裕子さんからお手紙を沢山頂いた事についての皆さまへの御挨拶の手紙を入手、運の悪い

ことに新年号の誌上に間に合わず、そして、数日前、「私を愛して下さいた皆様へ」——裕子の告別の言葉——という一文が舞い込みました。裕子の夜ばなしを引続いて書いて下さるという約束だつただけに、この突然の告別の言葉には驚きました。とにかく、この四十枚のお便りは三月号に掲載いたします。この一文を読んで頂ければ詳しい事情は皆さまにも判つたりするわけですが、今後の事は、目下古川裕子さんの御都合が連絡がとれませんが、新しい御住所が決定次第、どこからか御便りがあると編集部では信じています

○真木不二夫氏から新年号の「美しき悪魔の咲笑」以上の凄いやつ小説「魔性の姉妹」を執筆中とのお便り頂く。

○二月号から連載を開始しました伊藤晴雨翁の非小説、性液は今迄のものとなつた野心作、乞御期待。

営業部便り

○臨時増刊号、吾妻新訳「アリスの人生学校」の印刷殆ど完了、近日全国一斉に発売の運びとなります。前に申し上げました通り、お指示なき直接購読者の方々へは自動的に御送付申し上げます。但し臨時増刊号の分を別に御送金下さつた方々には予約金はそのままに御送付申し上げます。

○KK通信の発行遅延のため督促を頂きました向きへは直接御返事差し上げておきましたが、今後KK通信の発送は御督促を頂かなくとも確実に実行致します故、暫時御猶余を頂きたく存じます。現在の発送日の不定期、並に遅速は早急にとりかえして、毎月一定期日(出来れば本誌の中間ぐらゐに)にお届け出来るよう陣容を整備したく思つておりますので暫く御辛抱下さい。

KK通信

第16号

昭和廿九年一月一日発行 (毎月一回一日発行)
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定価 二十円 (振替口座大阪三四九五六番)



第16号

(毎月1日1回発行)
昭和29年1月1日発行
昭和28年4月17日
第3種郵便物認可
発行所 曙書房
定価 一部 20円

毎日配達される新聞の社会面を見てみると、現実には自殺とか殺人、傷害交通事故、血なまぐさい事件は数多く起つてゐることがわかります。私はサジスチックな人間ですが若し直接その現場に居あわせたとしたら、とても快楽だとか、悦楽だとかいう気持は起らないでしょう。

二面記事そのまゝが芸術でないと同様に現実の事件そのものは私に迫ってくるものはないのです。一定の距離を保つこと——これが芸術に不可欠の条件です。「責」もこの点芸術と同じことではないでしょうか、「責」の情景を想像の世界で弄ぶとしたらとことん迄進めることが出

論壇

「責」のもつ芸術

杉 清 次

来ます。然し現実には血肉や臓腑が散つた光景は決して私たちに快感を与えません。それは戦場や空襲で現に経験したところではあります。私は極めてサジスチックな人間だと

たりしたことはありません。子供の時でもトンボ釣りやセミ取りもしなかつた位です。街路上で巡査が交通違反で若い女を叱つてゐる場面などによくあります。野次馬の人だかりの中で、驚きと恥しきで蒼白の顔で唇をふるわせてゐる娘、巡査の威高気に怒つた顔、見物の冷たい顔——この際の私の心は少しもサジ的にはなりません。巡査の行き過ぎた行為に底知れぬ憤りを感じないで目をそらして、さつさと通り過ぎてしまひます。

ところが、時と場所が一定の距離を持つ様になると、その様な光景は私のサド的な気持を快く刺激し、若い恥しげな娘に権力的に加えられる辱しめが何ともいへぬ美感となるのです。歴史的事件にしても同様です。終戦当時満洲に於ける日本女性の凄惨受難、終戦後米軍による日本女性に加えられた非人道的行為等、当時として現実に直面した際は、持つてゆきようのない激しい憤りを感じるのみです。ところが一歩その現実を時間的には過去とし、哲學的に場所をつき離して考えた時、その際に辱しめられ、苦しめられる女性の屈辱の姿と心理とが、この上もない美感となつて力強く迫ってくるのです

確かに私にとって「責」は一切芸術的でないならぬのです。然し全く現実を離れたの芸術というものが存在しないと、如何に天才的な芸術家がその想像力のすべてを盡して「責」について語つても、それが一篇の空想に止まつて、その基礎に現実が存在しないなら「責」の持つ強い迫力は殆ど零になつてしまふだらうと思ひます。それはすべてよき芸術は現実を基礎にもつ同然です。



或る富豪の告白

マゾヒスト誕生(六)

峰村・佐吉

高慢ちきなツンとすました女、上品ぶつて見栄を飾る女、そんな女の假面をはいでむき出しの生のまゝの女を露呈させてやること、これはサディスト

にとつて大きな喜びでしょう。私は津矢子の肉体そのものについては正直なところ、世の中にこんなにも私の好みにぴつたりした女がいたのかと驚く位

完璧の美しさを具えているのです。彼女の身体の隅々迄知り盡した今として——勿論それは無理矢理に半ば強制しての結果でしたが——はその身体各部についての詳細な説明は出来るのですが、それは一応差置いて、彼女の性格について一寸述べて

みましょう。私はどちらかといえば、明朗でザツクバランな開け放しの性格が好きなのですが、津矢子は少くとも、正反対の性格のようでした。新婚早々あゝいつた事件があつたからでもありませんが、何時も事毎に夫である私に対して何か隠しているような態度なのです。彼女の肉体の隅々迄、毎夜の私の暴力の下に一毫といえど隠すことが出来ない位、暴き立てゝしまつたのですが

読者案内欄

十七字詰一行十円一回十行迄

○僕は内気で女の人でなければ思う様に口がきけません。そして僕の内は大変困っています。父は僕をぶつたり蹴つたりするため顔は傷だらけです。母は早く死に僕は一人で困っています。どうか僕を救つてやろうという方はお便り下さい(東京、木村勝、二二八)

○私は本年二十八才のサラリーマン、責められることに興味を持つ女性の文通を俟つ、なるべく二十五才迄肉体美の方。(兵庫、KK生、八四)

○僕は元来受動的な同性愛者だつたのですが、最近能動的なものを兼ねるようになり男性を責めたい衝動にかられます。責められたい方お便り下さい。(八王寺、J・K生、一三七)

○男性に後手に縛られる事を好む女性又は男に高手小手に縛られてみたいと思う女の方は左記へお手紙下さい。(札幌市南八十三、菊田方、馬場)

○サド性を帯びた美しい女性と文通い

司会)出席された読者の忌憚なき放談として興味を持つて読みましたが、上半期に比して低調のようには思えませんでした

9、現代文学に現れた責め(村田誠一氏)地道に本を読まれた立派な御研究には只々感謝します。そして次にはどんなものが現れるかという期待が大きいです。

10、長期刑及び凌辱の幻想と期待、(古川裕子氏)両方の告白に発表された裕子さんの心情が自分の気持と比較して大変嬉しく、特に十二月号で堺の

御陵の前でのセンチメンタリズムを私は大いに買いました。

さて、次への期待は吾妻氏の「感情教育」飛田氏の「蜘蛛と蝶々」、飛田氏について一言すれば「罪の椅子」はものゝ見事にどんでん返しを喰つた感じを受けたのはどうしたことだろう。来年度は如何なお膳立が揃つていてとやら、私にはどうしても離せない奇クです。どうか益々健全なる発展と、読者の御健康を祈ります。

短信往来

○去る十一月十五日、愛読者某氏の厚意により会場の提供を受け「マゾヒスト」チックな境地について「語る第五回読者座談会を開催いたしました。対象を同性に求める者と異性に求める者との相対的立場の方々の参集により忌憚なき真情を吐露され、近來にない貴重な収穫を得ました。司会者染田玄氏が通り一遍の上つべりを極力避けるという意気込みをもつて巧妙な誘導によるス

ムースな座談の運びはマゾの方々を魅了するだけではなく、一般のアフ党紳士に対しても、必ずやアツビルすると思ひます。従来疑問のベールに包まれていた男性マゾヒスト達の心理が白日の下に暴き出され、異常性の中にも共感を抱かれる方が多いこと、信じます。スペースの都合で二月号に予定出来な残念ですが、三月号誌上に発表したく思います。

○会員諸氏の御熱心なる御意見の中で本KK通信の内容につき、本誌に掲載不可能なものの中から選んでもつと凄

いものをとという御希望が相当ありましたが、これは一応書店の店頭へ出さなという立て前から幾分さういつた面で手心は加えていますが、現在のKK通信は特別会員の機関誌としましても過渡期のもので、公開(不特定多数に対する配布)してあります関係上、公然性を持つておりますため、いろいろな制約を受けるわけでありますから前号にて言及しました通り、何れ落着きますれば、特定の会員に対する誌も考慮したいと思ひますので、その点KK通信の内容につきましては諒解を得ておきます。

沼正三氏への御連絡。いつも御懇切なる御忠言を頂き厚く御礼申し上げます。漸次誌上へ盛り上げつゝあることは御承知して頂けると思ひます。然し片便りのため、当方の真意が伝達出来ないのが、なんとしても残念です。然し先便通り奥様の厳命とあれば、これも又やむを得ません。原稿だけは他の如何なる方々よりも確実且つ迅速にお届け下さるのでそれ以上の贅沢は云えません。然し今迄の原稿料が相当額溜

◎大好評

美しき縛しめ

アルバム 第二集

これは安いノ 三十二態の縛られた女ばかりの写真集が出た。

- 1、蝶涙、2、量感、3、手枷足枷、4、ナイロン、5、蒲団、6、深間の妖精、7、陽を浴びて、8、立木縛り、9、鏡、10、人間燈台、11、足枷、12、恍惚、13、礎、14、蟹責、15、前手縛り、16、後手、17、股間縛り、18、椅子、19、逆立、20、引廻、21、たてしぱり、22、犬ばえ、23、逆エビ、24、吊上げ、25、味覚、26、足吊、27、綱渡り、28、双丘、29、観念、30、人魚、31、悦虐、32、美声

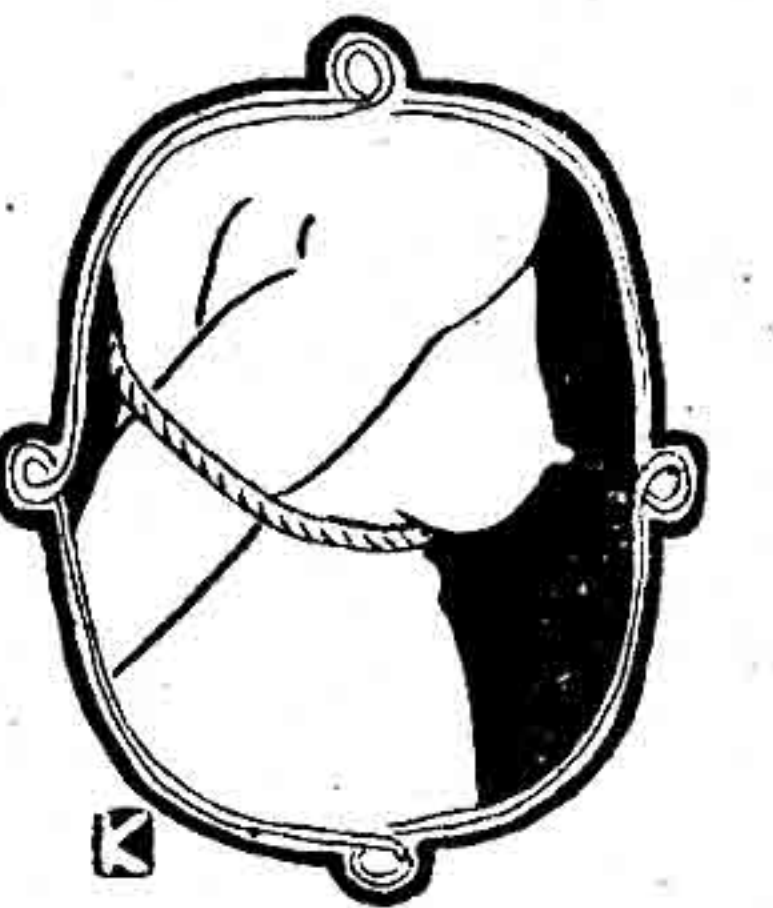
奇譚クラブ 下半期珍迷評

一 迷 評 家

しても――。

- 上半期は以前に述べましたので下半期についてベストテンを述べてみます
- 1、淫火(松井籟子氏) 何といつても気品高き小百合夫人の美しい肉体が責められる場面は全く好きであつた。繪も素晴らしい上々の作、中でも柱に後手に縛られたまゝ寝ている図はいくら見ても見飽きないものだつた。
 - 2、クリスチーヌの受難(吾妻新氏) 流石は大家、私が若しサジズム一辺倒の男であつたとしたら勿論、文句になしに第一位に推すんだが、なんとしてもマゾヒストを以つて任じる私さえ愛読おくあたわらない珠玉の作であつた
 - 3、らぶ・すれいぶ(鬼山絢策氏) 永い間飽かせずに読ませて貰つたのは厚く御礼申したい、でもこの主人公のような徹底したマゾの味は私には分らない氣もする。同じマゾヒストと
 - 4、あるマゾヒストの手帖から(沼正三氏) 所々に私にとつて身体中を抉られるような刺激とマゾの醍醐味を感じました。これが全部であつたなら私としては尚有難いのですが――。
 - 5、甘美なるアリスの降伏(寒川緑氏訳) 終りに近づくに従つて逼ましく盛り上る迫力、丁度乙女のたうつクライマックスそのまゝに。伏字のあるのが少々不満。
 - 6、現代のサジズム(久留木栄氏) さすがは「燐光」の作者、尤もうとなづけるのは私一人ではないでしょう。
 - 7、京子の生活の意見(羽村京子氏) 私は羽村京子さんの持たれている氣持に憧れと敬意とそれに親しみを感ずる理知的な文章に好感が持てます。
 - 8、女の子を縛つた座談会(辻村隆氏

伊呂波仁補遺抄



ございますが、これは私の助平心のあらわれだといつてお笑いになるでございましょうか。とにかく、私の思春期時代の思い出をお話して一応お話を終りたいと思います。又いつかそれから体験したことも書かして頂きたい存じます。(おわり)

【十月号】
(四一頁上段六行目) それは何かを抱きかゝえてうつぶせになつてゐる若い男だつた、そして荒々しい鼻息の間にせつなそうな消えいるような女の声を聞いた。少年の官能は異常に刺激された(同十一行目) 二人は少年がそこに立つてゐるとも氣がつかず狂つたように抱きあつてゐた(四三頁下段九行目) 少年はぐつと息をのんだ、始めて知る異様な程の快感だつた(同四行目) キスしてあげる――突然少年は重い唇を感じた。貴美子の荒々しい動作にふとほんのりと紅の香をかいた(四四頁下段七行目) 陰阜(同八行目) 濃い毛(五三頁下段十一行目) 慰み(五五頁下段二八行目) 愛がつてやつ(五六頁中段三行目) 裸の私に飛びかゝつて来て疊の上に仰向けに押し倒した(七八頁上段二行目) こけし人形(同二三行目) はすそう(二五三頁上段二四行目) 泉からはこんく(同五五行目) 抑制を解いた液体、私の舌から喉へと(二七四頁下段一八行目) 下半身の一部に挿して(同一九行目) じつとりとした濡れ(二七五頁上段五行目) 両足の間にびつたと吸い(同六行目) 彼女の両足は老人の両肩の上に乗る不自由な縛られた上半身に反して下半身は蛇のようにうねり、高くあがり又どつと落ちこみ(二九八頁上段一九行目) そつと右の手で紐を解いた。そして静かに腰をすらせて(同二四行目) あゝそうして私は最後の天国にも昇る夢の様な瞬間には思わず光男を抱きしめた。

一旦心の問題になると、まるで開かずの扉にでもぶつかつたように如何なる私の努力も全く歯が立たなくなつてしまふのです。それは私を落着かせないいらだたしさでした。自分の妻の心を手中に握ることの出来ない焦慮でもありましよう。

それ以来の私は津矢子の肉体を責める事に狂奔しました。四五尺の絹の扱帯を沢山用意しておいて、それを繋いだり二つに折つたり、輪にしたたりいろ／＼に活用して、女が最もいやがり恥しがるポーズをとらして身動き出来ないように固定してそのまゝ三十分も一時間も放つておいて眺めたこともありまふ。本や雑誌を参考に、ローソク、鳥の羽根、亀の子タワシ、山芋、其の他各種の責道具を用いました。津矢子を責める事によつてのみ、夫としての自分の權威を保つた氣になるのです。然し冷たい澄ました女、私を裏切つて欺した憎い女を肉体的に責めさいなんて自分の膝下に掌握してやろうという考えは失敗だつたということが、やがて判りました。

私の最初の意図がどこにあつても私の現に行つてゐる行為は、最も琴瑟相和した夫婦生活の閑房への延長を呈していたからです。その反応として津矢子は私の夜毎の苛責に対して激しい女の悦びを示してきたのです。冷たい女が私の侮蔑の手によつて歡喜の悶えを見せることは限らない私の征服感の満足でした。然しマゾ的な氣持に浸らしてしまつては、私の最初の目的である復讐の氣持からは程遠いものとなつてしまつたのは事実です。

私は彼女にマゾヒストとしての愉悅を味わさせてやる氣持は少しもなかつたのです。高慢な鼻をへし折つて侮辱の鞭の下で呻吟させてやりたかつたのです。それがどうでしょう。あの強情な女が、私の責の觸手によつて被虐の悦びにのたうつ女になつてしまつたのです。実際の所その時は我自身も最初の目的も忘れ果て、責められる歡喜に慔える女体の美しさに思わず恍惚として没入した結果、彼女に対する哀れさを感じるのですがその一時が過ぎ去ると再び冷たい水のような女に返つてし

まう津矢子の態度に私は、再び勃然とした怒りに燃え上るのです。
あんなにいまわしい原因さえなければ私達も平凡な夫婦としてありきたりな生活が続けてゐる筈ですが、今では新婚のない夫婦でありながら、相当高度のアブノーマルな閑房生活が続けるようになってしまつたのです。彼女をいろ／＼な方法で責めた事については直接閑房の機微に関することですので公表をばかりますが、とにかく精神では相反しながらも、肉体の上では私のサド性と彼女のマゾ性とが、びつたり一致したのは事実です。彼女の心の奥底にそういった潜在的なマゾ心理があるのなら、平常の生活にもう少し従順で素直であつてはしかつたのです。が、そうでは。若し彼女が前非を悔いて心の底から私に打ち解けてくれたとしたら、私はこれ程迄肉体的にびつたり合致した津矢子のことですから、彼女の過失は潔く許していたかもしれません。それにどうでしょう。彼女の強情は依然として直らないのです。肉体では歡喜しながらも、私の態度に最初

たしたし、東京の方なら尚結構ですが他でもかまいません。森山美歌さんのような人、サジズムの女貴子さんのような人。(春野夢吉、九〇八)
○私は同性の方の肌膚に異様な執着を持つて蒐集している二十才の女です何方か汚れた下着をお譲り下さる方はございませんか、お礼を差し上げるか新しいものと交換いたします。
(京都市、奥付弘子、在社十五)
○小生は男性マゾヒストの一人であり十七八才から二十六七才位の同性に全裸にされて縛られる事を念願としてゐる者です。相手がないので自縛で辛抱してゐますが、同好の士があればお便りを待ちます。(名古屋、一六八六)
○女性にして鼻の性感を意識し、鼻腔を愛撫されることに興味を持つ人。(特に写真のモデルとして)との交際を希望します。(真鍋四十六………)
○私は本年三十一才になるサフリーマですが、女性の素足に対して異常な執着を持っています。どなたか女性の足崇拜の同性の方お便下さいませんかすぐお返事します。

から敵意を持つていたのでしようか、
こゝで私は方針を一変させて、今迄
の肉体的な苦痛の与え方——これは結
果として彼女にとっては前戯的な愛撫
となつてしまつていたので——を精
神的な苦悩の与え方に変更しようと志
したので。長い南方での戦陣生活で
私は大分露出癖になつていた事は否
めません。先ず最初に考えたことは、
私の一号又は色街の女と一緒に自由を
奪つた津矢子に辱しめることです。そ
の方法としては、彼女を裸で身動き出
来ないように椅子に縛りつけておいて
その目の前で私が二号の女と戯れると
ころを見せつけてやることです。これ
は私のサディズムも露出癖的な傾向も
満足させ、その上、彼女に対してこの
上もない精神的な侮辱を与えることに
なるからです。私は早速この思いつき
を実行に移すことにしました。

とは比較にならぬ程見劣りがしますの
で、特にこの目的の為に別の女を探す
ことにしました。
余り初心な女ではこういった役目に
は駄目だし、又こういった事に使つた
女と長く交際するつもりもありませ
んの、私達夫婦の秘密の保持といふ
点も考えて、結局、交際援助の女性を
一カ月か二カ月の契約でこのプラン
の俳優に仕立てることに決めました。
此の計画によつて進められた準備は
半月程の間に全くなり、私は二十四才
になる援助を求める一人の女を得たの
です。彼女は平常は極めて淑やかな態
度で私に接していますが一度私の閨
房では大変な兇暴性を発揮するのです
何人もの男を知つてゐるらしい様子は
彼女との第一夜で判りましたが、若
し彼女の事務員タイプの昼の様子を見
たら、あの嵐のように吹き荒ぶ夜の生
活を想像することが出来るでしようか
勿論、私は自分の身分は明らかにはし
ていませんし、彼女と逢つたのはいつ
もホテルか旅館の一室でした。連絡は
彼女の勤めてゐるといふ会社へ電話を

すれば、退勤後であればいつでも逢え
たのです。このように昨日迄見ず知ら
ずであつた男女が、金というものの仲
介で十年以上の夫婦生活を営んだ者の
ようになるとは一つの驚異でした。
何回の逢瀬でもありませんが彼女は世
話女房じみた心を私の身の上に配り、
一度ベットへ入れば、夜叉と変じて積
極的に私の意を迎え入れるのです。
私はミイラ取りがミイラになつたよ
うに暫くはこの美佐子という援助を求
めた女にうつゝを抜かして、あの奇抜
なプランを忘れてゐる有様でした。
そんな時、私達にとつてまことに奇
妙千万なアブノーマル図繪が展開され
る或る機会が訪れたのです。
あれ程私の嗜好にびつたりした津矢子
でしたのに新婚早々こそは家にいりび
たりでしたが、一応の興味が覚めてみ
ると、あれ程真剣になつて津矢子を責
めたことさえ馬鹿らしい気持ちになつて
いました。美佐子という私の前に新し
く現れた女の魅力が私の関心を奪つて
いたのもたしかでした。

(未完)

(奈良、葛城生、四三九)
○二十才の会社員ですが、お恥しい事
ながら大変なマゾヒストです。以前発
表された事のある森山美歌さんの様な
方を望みます。三吉さんや中野安太郎
君を大変うらやましく思います。サド
の女の方お便り下さい。

(京都、吉岡生、三三八)
○責めに関するコレクション、特に写
真についての交換を求めます。

(大分、I・T生、一〇八)
○筋骨隆々たる男性とはゆきませんが
小生二十八才の男性、責めることの好
きな方のモデルになつたく、若しそれ
がかなわぬ時は交通或はお話を伺う
だけでも結構ですから、どうか連絡し
て下さい。小生決してプロではありません
せんが、ソドミーを罪深いものともう
しろ暗いものとも思つていません。葉
をもつかむ気持ちでお願いするのです。

(大津、羽賀豊、〇〇〇)
○僅は縛られることに興味を持つ女性
と交通したいと思ひます。僕の年齢は
二十五才、職業は工場勤めです。
(姫路、H・H、九〇八)



事をなさるなんて、夢にも考えなかつ
たのでございますもの。

「何におつしやるの、まだこれから
なのヨ、ね、こうしてちよつと前屈み
になつてごらんない」ソファの上
へ両足を屈めていました私は、おつ
しやられる通り、前屈みに背中を一寸
浮かしたのでございます。すると、矢
庭にお姉さまはシユミーズの裾をくる
りとおまくりになつて縛られた後手こ
と、まるで袋でも包むように頭の先
の方で結んでしまわれたのでございま

す。「ひどいわ、ひどいわ」私はそう
いつてもがきましたが、目かくしの絹
のハンカチがとけただけで、その袋の
中で自分の吐く息が次第にこもつてゆ
くのでございます。

「可愛い、私のペットさん。これか
らわたしの言う通りするんですヨ」
そうおつしやつてお姉さまは、私の
両足にお手をかけられると、両側へ力
一ぱいひろげてしまわれたのです。そ
れにはなんとした事でございまいしょ
うか。そんなにされたまゝで私はお姉さ

まの目の前に何もかもさらけ出
したまゝでじつとしていたので
ございます。それは先刻、私が
お湯殿で見ましたお姉さまの裸
なんかは比べものにならない恥
しい恰好なのでございます。勿
論あの時は私の外に下男や爺や
が覗いていましたのでお姉さま
としてはお怒りやお恥しさは又
格別なものであつたことは私に
も十分想像されるのでございま
す。今の私は、お姉さまに見ら
れてゐるという事だけでその部
分がジーンと痺れてくるような気持ち
でございました。

若し、私がシユミーズの袋で顔全体
を掩つていないとしましたら二人共、
とてもこんなことは出来なかつたで
ございまいしょう。お姉さまにだつたらど
んな事をされてもいゝという信頼感、
どんなことでもされてみたいという気
持はたしかにマゾ心理のきざしであ
つたのでございまいしょう。すつとあと
になつて、私が男性の縛り物にされた
いという気持ち、その中でも特に最も羞

しいかくしておかなければいけない場
所をじつと穴のあく程見つめられてみ
たいという、そして現にそうして見つ
められることによつて、天国へ昇るよ
うな喜悅を覚えたことも、みんなこの
お姉さまとの遊びから起つてゐるのだ
と思ひます。

後程になつて私が自分で拙いながら
も繪を勉強して、責繪を描いてみたい
という強い欲求から、いろいろ変つた
女の縛られた繪に筆を染めてゆきまし
たのも、そういう繪の中に自分の姿
を求めていつたのだらうと思ふので
ございます。でもその時はまだ乙女であ
つた私として一向にそういった事
は考えてみたりした事もなく、たゞひ
たすら慕しいお姉さまに自分の秘所も
みんなさらけ出してみたいといった気
持から起つたことではございました。

志津子お姉さまは、今どうしてい
らつしやるでしようかあの御湯殿でちら
りと見た白いお肌が今でもありくと
目の前に浮かぶやうで、他の部分のお
毛の濃かつたこと、思い合せて未だに
不思議に思つてゐるので(十四頁へ)

私が責絵を描くまで

羞恥のヴェールをぬいで ③

南 川 和 子

目かくしをされるといことは大変な不安感を与えるものでございます

私のお慕いしている大好きな志津子お姉さまのされることでしたし、それに絹のハンカチでゆるく頭のうしろで結えてあるだけなのですが、「さあ、おてをうしろへ廻して」とおつしやつて私の両手を後手にしつかりと縛っておしまいになつた時は、一体どうされるのだろうかという心配な気持ちが湧いて参りましたが、お姉さまが「和子さん、貴女はわたしの身体をすつかりごらんになつたのだから、わたしも貴女をお身体を見せて頂くわ」とそうおつしやつて私のスカートにお手をかけられた時は「いや、いや、お姉さま、かんにんして」と口では強く拒んでいましたけれども、心の中ではお姉さまのされることに身体中がぞくぞくする

ような期待を持っていたのでございます。

その頃の私は、もう本当に身体のだんなところを觸られても擦つたてたまらないのでございましたが、又それだけに、同性とはいっても他の方から無理に自分の着ているものを脱がされるという事は、単にそれを考えるだけでも強い刺激でございました。学校の運動場の片隅あたりでお友達と腋の下の擦りあひつをして遊んだことがよくございましたが、そんな仕草の中にも私達は愛撫とか、前戯とかいう言葉や内容は知らない乍らも、身体中をほてらせていたのは事実でございました。

今、お姉さまの手でスカートのホックがはずされ、ブラジャー、シュミーズとだん／＼下着へ手をかけてゆかれるのを意識しつつも、私は何ら抵抗しないのも心に恥しく、そうかといつて余り強く拒んで、お姉さまが「それじややめましょう」とおつしやるのが恐ろしく、ほんのゼスチュアだけの「いやいや」をして身体をくねらし、足をばたつかせていましたので、忽ちのうちにピンクのペチコート一枚にされてしまいました。

お姉さまもそれまで「さア、さつきを討つてやるんヨ」とか「素直にいう事をきかないと後でひどい目にあうヨ」とか殊更乱暴な口をおき／＼になつて、私の下穿に手をおかけになるとくるりとむくようにおはぎになつてしまいました。「あ、あゝゝ」私ははかない叫びを挙げて両足の膝を合すようにしましたが、弾みがついた下穿はそんなこと位ではなんにもなりません。ひやつとした空気が下半身に觸れるとそのまゝの恰好でいるのがとても恥しくて思わず両足をすくめてしまいました。

「和子さん、するいわ、さア、わたしにすつかりお見せになつて！」

そうおつしやつても、どうして大人になりかけの私が自分からさあごらん下さいといつてポーズをとることが出来るでしょうか、自分からはそんなことは出来ませんけれど、お姉さまにだつたら、無理にされたとしたら、いやな気持は少しも起らないどころか、そうしてほしいような気持がございました。いや、このまゝの姿勢でも、目かくしをされて、後手にされているというだけで、いうにいいない気持ちが湧いてきたのでございます。

シュミーズをまくり上げられたまゝで上半身に衣服をまとっているということが、この際かえつて私の裸にされているという気が強く湧いてお姉さまの前にそんな恰好を晒しているという事はたまらない恥しさでございました。「お姉さま、それだけごらんになつたらお気にすみましたでしょうか？もうお背しになつて——」私はもうこれ位ですまして頂けるものと思つて甘えるようにお願いしてみたのでございます。でも、私にしてみたらあのお上品でおすまし屋のお姉さまが、あんな



会友通信

○

私は同性である男性に苛められてみたいという男性マゾヒストですが、御誌が大胆に十一月号で男性マゾドや被縛写真を出されたので全く感激しています。古川裕子さんの告白が若し男性同志だつたらなアと思わぬことはありません。女の縛られた写真を参考にそれを男に直して繪に描いたりしています。画が拙いのでいつも満足するようないものが出来ずに残念です。同封の繪一枚は私の書いたもの、中から奇抜なものを選びました。美少年が棒責めにあつてるところです。獄取一氏の作品は全部私の好みにぴたりします。が八月号のアブノーマル・プレイは特別によかつた。今後もあんな作品やそれに写真もどしくのせて下さい。

(茨城・福井一生)

小生はいつも貴誌の縛られた女体の

美しさを愛好する一人です。毎号貴誌

ならではの素晴らしい口繪写真にはたゞたゞ感心しております。特に中富綾子さんの肉体の魅力にはひかれます。それで一つ中富さんをモデルにして次のような写真を撮つて頂きたいのです。

繪が苦手なので十分書けませんが、文章で説明しますと、両手を後手に縛り両脚を出るだけひるがへて、足首を鴨居に縛る。鴨居に逆さに吊るわけです。これを下から写すのです。次には椅子の上で両手と足首を縛り、出来るだけ身体をそらせる。この二つは勿論全裸のこと。是非私のアイディアを使つて下さい。(名古屋・北田保次)

○

俺は今年二十六才の男性マゾヒストです。体重は十八貫強、身長五尺七寸。趣味はスポーツ、レスリング、俺は可愛い、生白の女の賣場の所は大きいのです。がつしりした力強い男性が苦痛

をこらえて我慢している面などを見ると堪らないなんともいえない気持ちになります。木鼠吉五郎の半生の記事など大好きです。この様な所があると夢中で買つて読むのがさびしいのだ。俺はやりたいた拷問、されてみたい気持ちで夜も眠れない事がある。二年前、仲間や友達から受けた拷問を思い出してなつかしく思うのです。中学の頃、動員で毎日工場でした。そこで無理に不良仲間に入れられ、体を強くなるためレスリング部に入り、肉体は生れつき大きかつたが、ケンカ、リンチと毎日明け暮れていた。同封の繪は俺がリンチされた時の事を思い出して書いたものの。写真は俺の全裸の姿だ。(M)

○

沼正三兄へ、私は一つの質問を貴兄に提出したいと思ひます。それは私の今迄感じている範囲では「サディステイクな女性」は劣弱感に根本的に支配され、マゾヒステイクな男性は根本的に優越感を持つている」という假説です。つまり、サド女性の場合は自分の弱さを知っている事が前提であつて、

○小生はマゾの趣味で三十年来マゾの繪や写真を集めてきましたが、中々マゾを扱つたものではなく弱つています。どなたか分譲或は交換して下さい方はありませんか、文章でもマゾの心理をよく描いたものであればほしいと思ひます。(尾崎、KK生、五五四)

○私は今迄人には言えない異常な苦しみ、記録を経験してきました。同じ悩みに苦しむ方々と誌上でもい／＼です。から文通を御願ひしたいと思ひます。よろしく、どうぞ。(藤田鮎彦)

○私は普通の素人の女性ではなしに、特飲街のような色街にいる女に特に強い興味を感じます。沼田さんや其の他そういう女の方の讀者も沢山おられることと思ひますが、お便りくれませんか、私が私娼や特飲街の女に興味を持つ理由はその時お話をいたします。

(大阪、森本生、二二〇五)

○妾は縛られることに非常な慣れを持つている女です。年齢は、二十一才、現在は無職です。女を縛らない男の方はつまらないと思ひつています。四十才位から四十五才位迄の縛ることに興味を持

其れに対する一種の反撥と其れによつて生ずる精神的な穴を塞ぐため、又は塞ごうとする意識のためにサド的傾向を持つて来、マゾ男性の場合、極度の優越性を信するが故にこそ被虐の立場に立つて見たくなるのではないかという事です。少くとも私はそういつた意識がある様です。貴兄の場合でも討論すると、甚しくサディステイクといつてよい位猛烈ですし、その論の述べ方は極めて攻撃的な要素によつてのみ形成されております。これは矢張り自己を支配する唯一の女性以外の何物にも負けまいとする——ひいては負けないという自信——故にはではないでしょうか、或は女性すら征服出来るという自信が意識の奥深くあるのではないかとこのことですが、如何でしょう貴兄の作品を読んでいて、何かそんな気がしてきました。併し私の考え方は余り観念的すぎるかな。

(天泥盛英)

尚お手紙に対する御返事編集部へ送りましたが、掲載の余地なきため直送致したし、冒険小説の方法にても結構

御送付又は手交の方法、日時、早急に編集部へ御一報下さい。

(二六〇二・天泥生)

○ 小生従前、色々な雑誌を漁つても不満足だったのが、御誌によつて初めて満足させられたわけで大変喜んでいます。殊に同志の諸兄姉が沢山おられるのには心強く思いました。川合伊都子、亀岡絃七郎、三氏の作、賤機礼津子さんの通信は渴仰に値します。こう書けば小生のこと、思います。小生の念願は御誌を通じて今後同好の方々と交歓をやりたいと思います。尚小生はその道に入つてから三十年になりますので、いろんな経験を追々発表して皆様の御批評を得たいと思います。

(兵庫・田中生二八〇)

○ 最近頃に充実を加えてきた御誌に心強く思つております。私の嗜好を述べて御参考に供したいと思ひます。御誌の主眼が「男サディスト」及び「女性マゾヒスト」に置かれてゐる事は誠に結構な事で誌上での皆様のいろ／＼の

告白を拝見いたしましたも、一部の人を除いてはほとんど共鳴致すことで大いに賛成です。然し今迄の御誌の内容を大別してみますと、どうも不賛成なのは「縛られた女」、「鞭の責苦」、「切腹」の三点に限られてゐるようにお見受けするのが何としても物足らず卒直に言つて、こゝに一つ「お灸」を主体とした物を加えて頂きたいものです。

申し遅れましたが、私は図案家でお灸を据えられてゐる女性の責苦がたまに魅力に感じる一種のサディストなのです。それで拙い繪ですが夢中で一生懸命に書いた作品がありますので同封致しました。何かの参考に利用して下さいましたら幸甚と思つています。その点、久しく待ち焦れて望んでゐたものが九月号の南川和子画「灸をすえられる女」で、この時はかりは待つていましたとばかり声を大にして叫びたい位でした。何度見ても見あきす誠に嬉しくつて、この月の九月号は五冊も六冊も格別に買い集め、私の貴重なコレクションの一部となりました。南川和子さん及び御誌に心から御礼申し

つ社会的地位のある方の御便りをいたゞきたいと思ひます。

(和歌山、O・H子、一〇一八)

○僕は来年の二月に誕生日を迎えると満二十四才になる男性です。僕は貧弱な身体ですが是非女性サディストの方の手によつて苛めてほしいのです。肌は美しくありませんが色白です。かなしむべきは臀部に一文字火傷の痕があるのです。それが気になるのですが僕のような者でも苛めてやろうというサドの方があればお願い致します。

(大阪、成吉生、四六六)

○私は一般的に性に関する風習を各地に亘つて蒐集していますが、特に特異な奇習についても蒐集したく思つていますので、そういった資料をお持ちの方は交換したく思います。

(溝端一斎、三〇二)

【係より】読者案内欄に私信送達御希望の方は切手三十円同封御申込み下さいは転送の労をとりまします。

掲載御希望の方は一行十円の割で切手同封の上御申込み下さい。

て、一年で離婚した経歴の持主です。

被虐の体験を持つた鈴が裏面から舞台中央に登場することになった結果、彼女の豊富な体験から生まれてくる責は痛烈さを加えて来ました。奴隷の女主人達の間で結ばれた固い約束を破つた秀子は、女主人の地位から奴隷へと転落してしまいます。

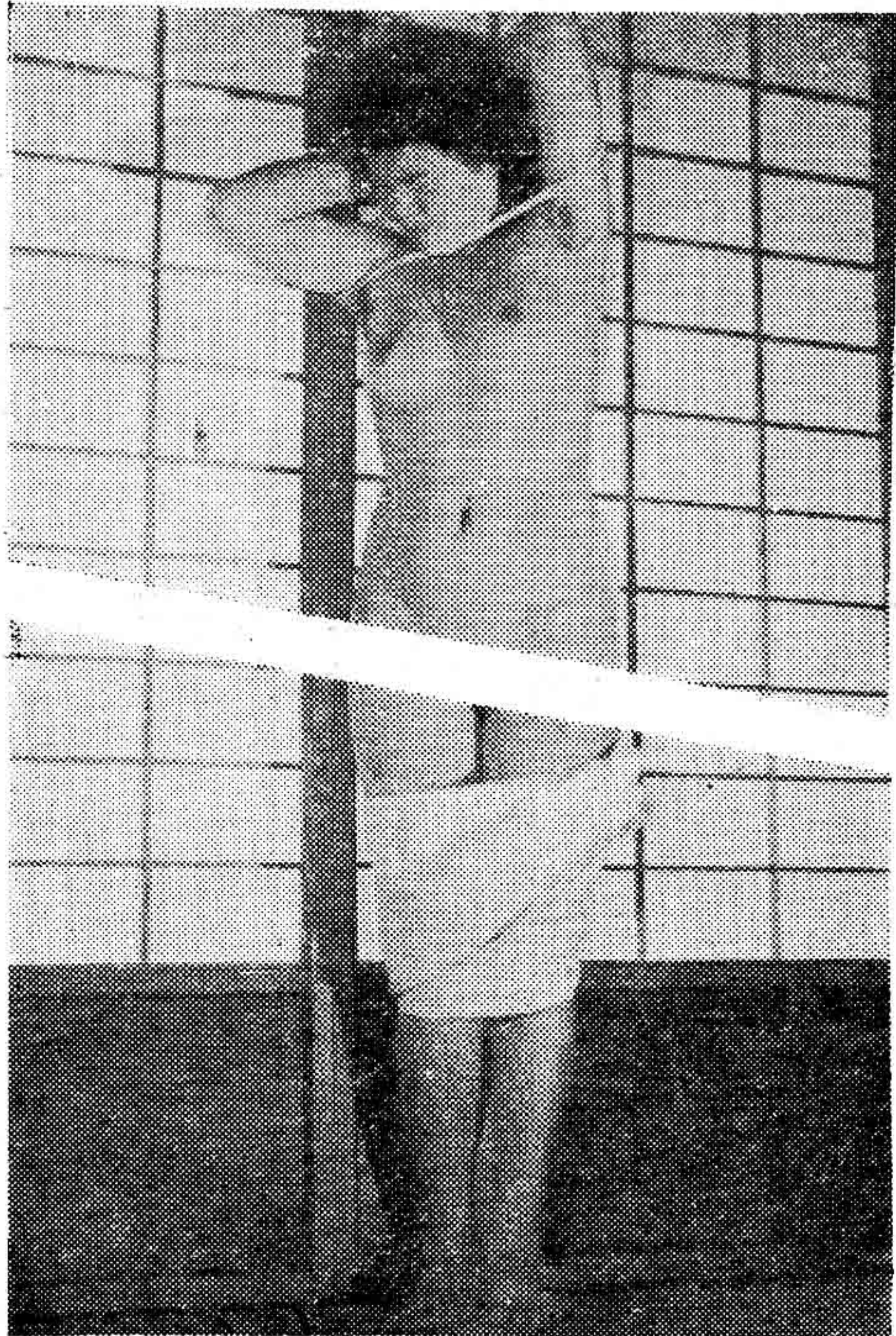
第二目目は女奴隷秀子に対する言語に絶した地獄繪巻が繰り展げられて行きました。最年長であるためグループの主導的立場にある俊美は、約束の手前秀子を奴隷に堕したものの、出来る限りかはおうと努めました。冷嘲な友子や女の産恥を掻きむしる様な、鈴の行為に耐えられなくなつた秀子の失敗に終つた逃亡を契機に俊美の態度は一変し、惨忍な加虐者へと変貌します。苦痛に歪む秀子の裸身を見て居る中、俊美は嗜虐の快さに陶酔してしまひます。

第三目目に及んで原稿は百枚を突破してしまいました。劇団の研究生寮に連れて行かれた男女一対の奴隷は、二十人からの観衆の前で、人間ではない

単なる生物にしか過ぎない奴隷が、現代でも所有が可能であることの証明として、屈辱的な動物の姿態を一本の鞭によつて強制されます。

破れ裂ける産恥に啜泣く女奴隷、感情の無い実験動物として男性の生理を暴露され、露骨な玩弄に喘ぐ男奴隷、空を切る鞭に、全肉塊を捻りのたくり歪めて、苦痛に呻き悶える動物、幻妖の紫雲が感覚を痺らせて行く、観衆のどよめきを遠く聞き乍ら、怒濤の如く押しよせ、押しよせて去るを知らない幻想、原稿を染めていく青インクののたくりは、終りなき幻覚となつて私を混沌の遙かなる底へと引摺りこんで行くのでした。

マゾヒスティックな幻覚、私を混沌の彼方へ叩きつけてゆく飽くなき貪らんな悪魔の觸手は私の心の琴線をむんずと握つて放さないのです。のたうち、悶え狂いまわつて私はその幻覚の世界



私の初めて縛られたときのポーズ

川端多奈子

美な魅惑の世界から抜け出すことが出来るでしょうか。

私にとつて僅かに現実とのつながりを思わせるのは、原稿用紙の上に走つていく青インクの文字のかす／＼だけ。その一コマ二コマを埋めてゆく文字さえも私には青白い磷光を放つ後光のように思えるのです。

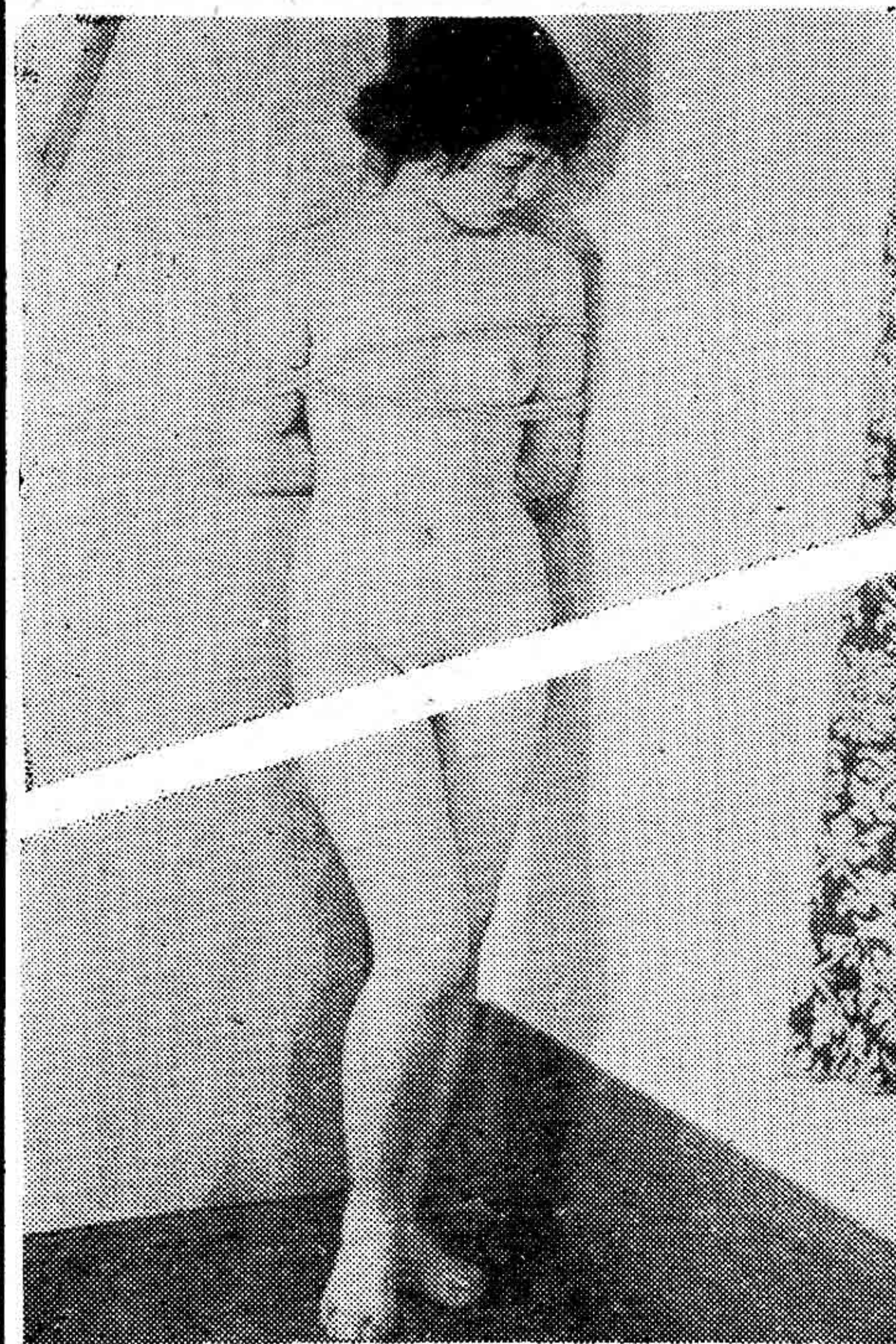
な展開に呆然となる始末でした。錯乱した私の幻覚は、嘗て私の女主人が私が希求して止まない、姿態や言動をとつて異れなかつた不満が、幻想の世界に於て、女主人にそうあらしめるためから生じた苛虐の鞭でした。羞恥を超越した汚辱の沼にのたうつ女主人の苦悶、それ自態が私の姿だと知りました犬より卑しい奴隷の私が、女主人に隷

属して合一し、彼女の苦悶の号泣と無限の羞恥を彼女と共に味い苦しむ私の姿なのでした。手記は八十枚を越え百枚に至ろうとして居ります。

それは私が、ふとした機会に知つた倒錯の魅力から逃れることが出来ず、余す所なく究めたい欲求から悦楽の園へ一歩々々近付いて行つた若い頃から始まつて居ります。夜更けの自室で自虐

私の初めて縛られたときのポーズ

中富綾子



の裸身に限りない喜びを知り、押しよせて去るを知らない幻想の囚人となつた私が、寝静まつた街をさまよつて居ります。

勤め帰りの三人連れの女車掌、月光に躍つて居る彼女達の足下に、体を投げだして訴え懇願しようとして居る私でした。狂いそうな激しい願望に耐えられなくなつた私は、従妹の秀子や私の共通の友人である某劇団の

研究生、俊美、友子、智恵子達を対象に選ぶことに決意しました。親近な間柄だけ万一の失敗を考えると、これは大変勇気の要る冒険でしたが、妖気につかれた私は冷静な理性からは遠い存在になつて居りました。

ある会合の機会を捉え彼女達の話題を恋愛論へと誘導し何も彼も捧げ盡した至高の愛情形態は奴隷の姿と同一であり、現代でも男が愛する女の前に奴隷となり得ると強調、反対論を述べる彼女達の反感

を煽り、興味を唆ることに成功しました。男の様な俊美は秀子に淡い愛情を感じて居りました。友子は秀子の汚辱の姿態に興味を感じ積極的に冷酷になり得る女でした。

私の女主人である秀子は、象牙の肌と鹿の様に均勢のとれた体を持つた美少女でした。私の所論を実証するため三日間の実験期間が設けられて私は彼女達の奴隷となつて待つて居ることになりました。

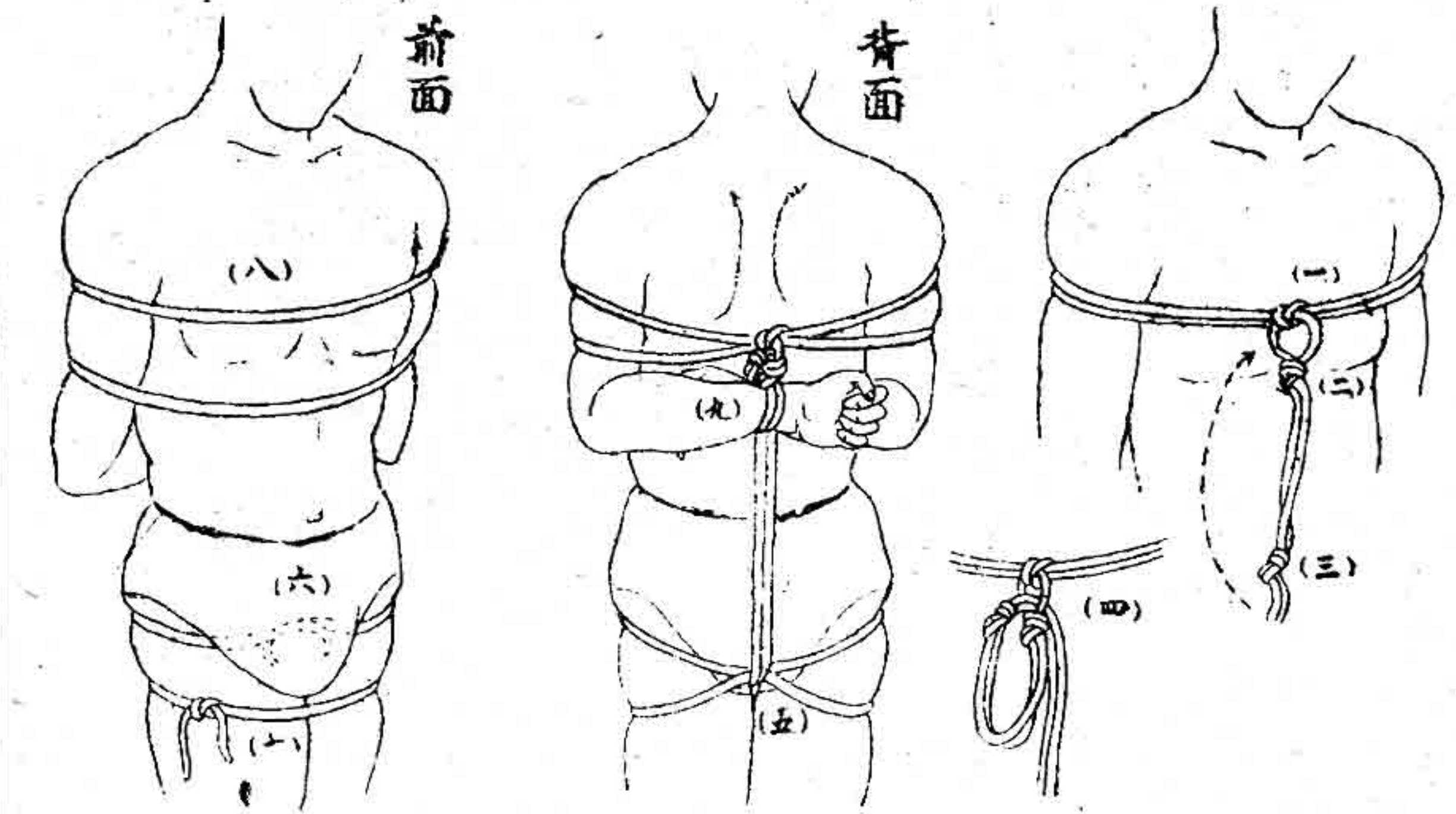
鞭と誓約書をもつて私に奴隷としての恭順を誓わせた彼女達は、私から人間としての資格を奪い、けだものも耐え難いであろう汚辱に満ちた暴虐で私を苦しめ遂には失心せしめて第一日が終りました。男性の心理や生理をえぐつた数々の冒険的行為は、若い彼女達には考えられる筈も無い邪悪な考案でした。これには鈴と言う女中の指導と助言が蔭れて居たのでした。鈴は私の寄寓先に勤める二十八になる、小柄な上品な顔立ちの女でした。鈴は看護婦であつた頃医師と結婚しましたが、サド的傾向のある医師のため苦しめられ

自縛の実験報告

自縛生

(KK通信第十五号の会友通信にて予告されたもの、従来各氏が発表された自縛の方法と比較されると面白いと思います。)

まず四間程の長さの縄(麻又は木綿の細引)を用意し中心を求めて、胸より一回左右の腕の上からまわし、しつかり締めて結びますと(一)になります。(二)になります。結んだ縄を一本にしてその縄が通る程度の間隔をとり一束に結びますと(三)になります。(四)になります。結び目から両手首が入る程の長さにして更に結



びますと(三)の様になります。余つた縄尻を(一)と(二)の間に通しますと。(二)の結び目が(一)と(二)の間に止ります。(止まる様に結んで置きます)これで(四)の様になります。胸にかけた縄を後に廻し、結び目を背中中央にもつてゆきま

る縄を尻部より股をくぐらせて前に廻し(五)ペニスの上で交叉させ(六)後に廻して(五)の縄の下をくぐらせ再び前に廻してとつと締めて結びます。これで縛り終りましたので両手で胸の縄を(八)の様に広げ、両手を後に廻して(九)の縄を引き乍ら両手首を差し入れます。ゆるい場合は輪をねじつて締めます。これで完全に自縛出来ました。

なるべく全裸で縛りますと、着衣の時とは感じが全然違つて、三、四分も経ていいますとエレクトの状態に入ります。(四)迄の縛り方では自分の思うまゝに縛ることができ、私はこの方法でいろいろと縛り方を考へて楽しんで居ります。この方法で足首を別の縄で縛り、猿轡をかけると又幾分変わった気持ちになります。(東京一九八四)

【交換】皆様御所持のコレクションと交換御希望の方は、概略の目録に御希望の品を記して辻村隆宛御申込み下さい。詳細御返事差し上げる筈です。

上げたい気持ちです。尚引続いて誌上ではありませんが、代理部案内に「炎責め三態」が出ました事は、ますます嬉しく最近にないたまらない興奮をさせられ全く魅了されました。勿論これも貴重なコレクションとしての役目を果たして頂きました。この様な構想は今後に於いても是非お続け下さる様、熱望している次第です。尚十二月号の「鶯の谷渡り」新年号の「私の求めた男」もそういう意味で嬉しく読ませて頂きました。(サディストの愛読者)

私は女を縛ることに大変興味を持つていますが特に海老責めを好みます。勿論実際に人を縛つた事は一度もなく自分を試験台としていろいろの縛りを試みております。最近号の写真や滝さんの繪などで紹介されています。股間縛りには新たな興味を覚え、海老責めに股間縛りを併用した縛り方を考へてみました。なにしろ自分自身で縛つて(後手にせず)鏡に見える限り描いてみました。御誌で村田那美子さんをモデルにして写真にして是非誌上に発表して下さい。(東京・A・K生)

成 告 白

未完の幻想

東 二 郎

私がマゾヒストとして被虐の陶醉境に耽溺するに至る迄には、人間であるが故に味わなくてはならない苦悩をもなつた試練がありました。煉獄にも似た渦中に自から求めて突入したについての動機は甚だ薄弱なので、私には先天的に授かつた嗜好なのだろうと思つて居ります。然し現在の私を嫌悪したり、不幸な性向だと思つたことなぞ聊さでもない所か、この世界の醜しき快感を味覚し得る、極く限られた人間にのみ許された天与の感覚だと思つています。

私がマゾツホに傾倒し、神に選ばれた耽美者としての恵を心ゆく迄味わい酔い痴れて居る時、たまたまKKの読者となりました。KKを通じて私と同好の士の存在を知り喜びを覚えると共にKK数万の読者に、私の赤裸々な手記を発表しようと思ひつきました。それは社会人としての私の凝態が引きむかれて、白日のもとに曝けだす羞恥のもなつた行為です。が同時にそのことは自虐の快感を与え私は心をときめかして筆を取りました。

然し書き進んで行くうち現実の体験と、アクセサリの意味で出場して貰つた幻想の女性、舞台の全部を占領してしまつたり、斯うあつたらと、現実の女性が満して呉れなかつた諸々の願望が、いろいろな形になつて躍り出して来るのでした。五十枚、八十枚と書き続けて行く中、現実と幻想が交錯して区別がつかなくなり、遂には私の女主人までを彼女の同性の友人が振う鞭の下に叩き悶えさせてしまいました。これは一体どう言う事なのでしょう。私は加虐の鞭を持つことなぞ考えたこともありませんのに、私は事の意外

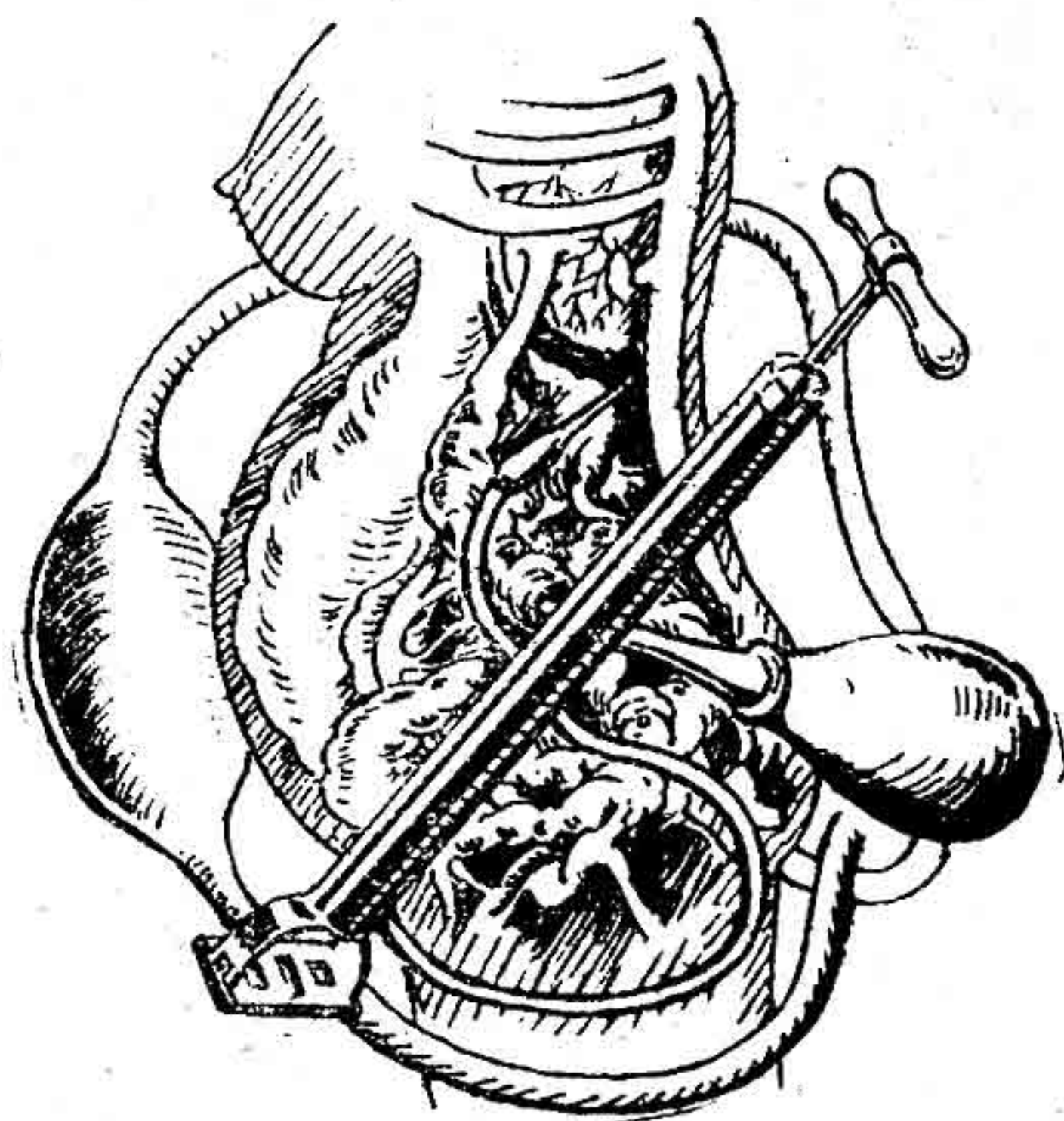
るので便利なのと、もう一つは、尿道に異物をはさんでいるという感覚をつくり出すためなのです。この粘膜の敏感さのためだけにでも不用意に外物（流動物を含めて）を中に入れることを避けるべきでしょう。肛門とそれに接続する大腸はこれらの二つの開孔にくらべてよほど安全です。肛門の疾患（痔）は結核菌などによるもの以外は概して固い糞塊によつて肛門が裂傷をうけることが原因ですから、このよう

な外傷をこしらえないように注意することです。何によりいゝことに肛門の粘膜は尿道などより遙かに鈍感なのです。余程乱暴なことをしない限り傷がつくことはまずありません。冷えていて血液の循環がよくないといふようなことがなければ相当大きく（直径三センチ位あるいはそれ以上）開かせても裂けるなんてことはまずないでしょう。大腸の方も同様です。腸の管は強い筋肉の壁で出来ている膀胱な

どと違つて非常に弾力性（伸縮性）のある膜ですから、非常に大きな収容力があります。それから大事なことは小腸と大腸との間には弁があつて内容物が逆流しないようになつて居ることです。（逆流しても、余り害はないかもしれませんが）だからどんなにたくさん空気を湯を大腸につめてこんでも決して小腸までものはづけて行くというようなことはないのです。（完）

◎会員の方々へ◎

会員の皆様の機関誌としてのKK通信を十二分に活用意義あらしめるために皆さまのお便りをお待ちいたします。読者論壇、手記、告白、編集に対する御意見等KK通信に掲載する原稿をお寄せ下さい。皆さまの楽しいグループの集いとして、今後益々活潑な動きを展開したいと思つております。



補追 京子の生活と意見から

(本誌九月号所載の追補)

羽 村 京 子

「たゞこゝで安全のために、次のことは是非申し上げておかねばなりません。つまり、女性の股間部の三つの開孔はそれぞれお互いにずいぶん異なった性質のもので、私がこゝに書いた遊びに適応した必要にして充分な条件をそなえているのは消化管（肛門・大腸）だけなのです。……生殖器の開孔と腹腔との間には直接の結合が成立している。……例えば液体を子宮腔へ注ぎ込むと、それは卵管へ突き進み、こゝを通つて腹腔へ達することが出来る。これが（腹膜の大きな吸収能力に於て）中毒性や局部的若しくは汎発性の腹膜炎を起す原因となり得る」（ヴァン・デ・ヴェルデ）従つて陰門（生殖器の中に固形物を入れることは通常何ともないのですが、流動物（液体乃至は気体）を入れるとその一部が腹腔に抜けて恐ろしい病気を引き起さないとも限らないのです。私はお医者さんじゃありませんから余りくわしいことはよく分りませんが、私のたのしい空想（罌子殺しにされる美女）の中で裸の女がポンプで〇〇から空気をどんく押し込まれる（彼女の両眼はクワツと見開いたが拡大したうつろな瞳孔はすでに彼女が意識を完全に失つて居ることを示

外は、私はこのような無謀な冒険を決して私たち自身の遊びの中にもち込むことはしません。膀胱の場合も同じことです。膨満した膀胱の有害なことにについてはヴェルデも書いており、そのために女性が腰を排尿管を我まんすることとはよくないと警告していますが、膀胱は直接腹腔につゞいていないにしても、輸尿管を通じて腎臓に逆流する尿が腎臓炎をひきおこすこともあるようですから、空気を中に入れることは危険でそれに、空気が尿道を通じて出て来る時は大変気持の悪いものです。それにもまして注意しなければならぬのはこの器管（尿道・膀胱）の粘膜の異常な敏感さでしょう。尿道を通して膀胱と連絡するのは普通カテーテルという器管を用いるので私もそれを用いていますが、消毒は出来るだけ完全にしておく必要があります。女性の尿道は男性と違つてはるかに短く、わずかなセンチにも足りない位ですから、カテーテルの挿入は容易で、拷問される時に私はよくこれを入れたまゝにしておきます。一つは小便がたれ流しにな